

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|---------------|------------|--|
| 事業所番号 | 1570600435 | | |
| 法人名 | 社会福祉法人 御幸会 | | |
| 事業所名 | グループホームしばた | | |
| 所在地 | 新発田市下中山246番地1 | | |
| 自己評価作成日 | 平成26年2月1日 | 評価結果市町村受理日 | |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokensaku.jp/15/ |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|--------------------------------|--|--|
| 評価機関名 | 公益社団法人新潟県社会福祉士会 | | |
| 所在地 | 新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階 | | |
| 訪問調査日 | 平成26年3月27日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

四季の移り変わりを感じることができる、山あいの地域にある、利用者6名という少人数の、とても家庭的であたたかみのあるホームです。
恵まれた環境で、利用者一人ひとりが自分らしく、日々ゆったりと暮らしています。
地域の方とも行事等を通じて顔なじみの関係ができ、関わりが広がっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、山あいの自然豊かな集落の高台にある小学校の跡地に位置している。各居室からは雄大な胎内の山々が望め、ウッドデッキで外気浴をしながら爽快な気分を味わうことができる。
事業所に隣接して地域の鎮守の神社があり、利用者は日常的に参拝したり、散策している。また、近くにある地域の野菜直売所での買い物きっかけとして地域の方々との日常的な交流が持たれており、地域と一体となった生活が営まれている。
事業所は、1ユニット6名のグループホームであるが、少人数であることを活かした家庭的な雰囲気の中で利用者の生活支援が行われている。職員の、少人数ゆえの行き届いた適切なケアのもと、一人ひとりが大切にされ、のんびり、ゆったりした、その人らしい生活が守られている。

自己評価および外部評価結果

| 自 己 | 外 部 | 項 目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|--------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 地域との関わりを持ちながら、四季の移り変わりを感じ、ゆったり、のんびり暮らすことを大切にしています。毎日のケアでは理念を頭におきながら、実践に取り組んでいます。 | 事業所の位置している地域の特性や地域との関わりを謳った理念を掲げ、日々その実践に取り組んでいる。毎月のミーティング時や日々の打ち合わせの中で理念を確認している。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 毎週日曜に開かれる野菜直売所の利用や、月一回の神社清掃のほか、春のクリーン作戦、施設の夏祭り、神社のお祭りなどに参加して、地域の一員として地域住民と交流している。 | 事業所の隣の神社の掃除に地域の方と取り組んでおり、年間の掃除予定表が事業所へも送られてくる。塞ノ神等の地域の祭りに参加するだけでなく、事業所の夏祭りに地域の方に来ていただくなど、お互いに行き来する関係が出来ており、活発な交流がなされている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 日頃、地域の方々との関わりを通じて、認知症の方への理解を得るよう努めている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議では、利用者の暮らしぶりや行事、サービス提供等の報告を行うとともに、運営に関する事や地域との連携について意見交換を行い、サービス向上に活かしている。 | 奇数月に開催されており、利用者、家族、区長、民生委員、市の担当者、地域包括支援センター職員等が参加して意見交換が行われている。利用者で何か作ってみてはどうかという委員からの提案を受けて千羽鶴作りに取り組むなど、会議で出た意見を実際の支援に活かしている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 市の介護相談員派遣事業を活用し、事業所の実情を見て頂き、ケアサービスの取り組みを伝える等の連携を図っている。また、介護保険の更新手続きで市の窓口へ出向いた際に状況を伝えたり、相談したりして相互協力関係を図っている。 | 運営推進会議への参加を通じて、あるいは日々の手続きの中で、市の担当者とは双方向の連携が取れている。市の介護相談員の受け入れを行っており、訪問後に提出される報告書を通じても市との連携が図られている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 「身体拘束」のテーマで特養合同の勉強会を行い、理解を深めている。日常においても利用者の行動を把握し、職員同士が声を掛け合いながら、さりげなく接し、自由な生活を送れるように努めている。 | 年2回以上、併設のデイサービス、特別養護老人ホームと合同で身体拘束をしないケアに向けての勉強会を行っている。事業所でも研修記録の読み合わせを行うなど、研修に参加できなかつた職員にも周知し、全職員がその人に応じたケアを提供できるよう配慮している。 | |
| 7 | (5-2) | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 高齢者虐待防止関連法について、特養合同の勉強会に参加している。ホーム内でも日頃、職員同士が声を掛け合い、虐待の無いケアが実践されている。 | 虐待防止についても身体拘束の研修同様、複合施設の強みを活かした施設全体での研修が行われており、それに参加して理解を深め、虐待防止に努めている。管理者は職員の話をよく聞き、ストレスを溜めないよう配慮して虐待防止につなげている。 | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 日常生活自立支援事業、成年後見制度について勉強会を行い、知識を深めている。今後必要な方については活用できるよう支援していく。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約の締結、解約の際は、わかりやすく説明を行い、わからないことや不安に思うことを引き出すような聞き方を心がけている。質問等には、更に十分な説明を行い、理解して頂けるまで丁寧な説明に努めている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 家族通信で施設での様子をお伝えして、面会時、電話連絡時において、意見や要望を聞いている。また、運営推進会議でもご利用者、ご家族から意見、要望を聞き、運営に反映させている。 | 毎月2回の定期受診の様子を家族へ連絡する際に、家族から色々と意見を聞くようにしている。年3回発送する家族通信にもアンケートを添えて意見をもらえるよう工夫している。運営推進会議には順番に全ての家族から参加してもらい、意見を聞けるよう配慮している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 外部評価 | |
|-----------------------------|-----|--|---|---|
| | | | 自己評価 実践状況 | 実践状況 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 月1回、職員全員が集まる定例のミーティングで、意見、提案を出し、運営に反映させている。また、日常の業務の中でも常に意見を出しあい、よりよい運営に繋げるよう努めている。 | 毎月1回の定例ミーティングや日々の申し送りの際などに、職員から意見や提案を聞けるように配慮している。ミーティングで出た意見をもとに、利用者支援を手厚くするため朝の職員の出勤時間を遅くするなど、職員の意見を運営に反映させている。 |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 個別職員の業務や悩み等の把握をして、職員の疲労やストレスの要因について常に気を配り、相談しやすい環境作りに努めている。また、勤務時間中にも気分転換ができる休息室を確保している。 | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 研修案内が届く毎に、職員の経験年数やレベルに合わせ、可能な限り出席できるように配慮している。また、職員個人個人が資格取得を目指し、勉強に励んでいる。 | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 市主催の研修会を通じて、情報収集や情報交換を行い、サービスの質の向上に努めている。 | |
| Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 事前面談で生活状態を十分に把握するようにしている。必ず本人に会って、心身の状態や本人の思いに向き合い、職員が本人に受け入れられるような関係作りに努めている。 | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | ご家族が求めていることについて、その経緯や内容について十分にお話しいただき、理解するようにしている。ご家族のお話を懇切丁寧にお聞きすることで次の段階の相談等につなげるよう努めている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 本人やご家族の思いや状況等を把握し、可能な限り柔軟な対応を行うように努めている。場合によってはケアマネージャーや他の事業所のサービスにつなげるなどの対応に努めている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 支援する側、支援される側という意識を持たず、お互いが協働しながら和やかな生活ができるような場面作りや声掛けを行い、共に生活しているという関係を深めている。 | | |
| 19 | (7-2) | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 職員は家族の思いに寄り添いながら、日々の暮らしの出来事や気づきの情報の共有に努めている。ご家族の来訪時はご本人と家族の潤滑油になるように努めている。 | 家族と本人の関係が疎遠にならないよう、家族との連携を密にし、あえて家族に用事をお願いして訪問の機会を作るなど配慮している。また本人の状態が変わった場合にはその背景や理由を説明し、家族の気持ちに寄り添った対応を心がけている。 | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 馴染みの理容室の利用やお墓参りなど、一人ひとりの生活習慣を尊重して、外出できるような支援に努めている。 | 近所との関係が深いので、日常的に知り合いの方のところへお茶を飲みに出かけたり、馴染みの美容室へ出かけるのを支援している。またお墓参りは家族にお願いしているが、家族が出来ない場合は職員が対応している。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 利用者同士の関係性について全ての職員が連携して情報共有している。毎日のお茶や食事の際は職員も一緒になって、利用者同士が多くの会話を行えるような役割活動を行い、利用者同士の関係が円滑になるような働きかけを行っている。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | サービス提供が終了したのちも、これまでの暮らしの継続性が途切れないように、ホームでの生活環境、支援内容、注意が必要な点等について情報提供に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 外部評価 | | |
|------------------------------------|-------|--|---|--|--|
| | | | 自己評価 実践状況 | 実践状況 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 各人の思いやご希望、意向等の把握のため、お話を傾聴するように努めている。また、日々の関わりの中で言葉や表情、行動などを注意深く観察し、一人ひとりの思いを把握して検討するため、職員同士で情報や意見を交換している。 | センター方式のアセスメント様式を活用し、思いや意向の把握に努めている。入居時に本人や関係者から話を十分に聞いているが、日々の関わりの中で新たに知り得た情報も、シートに分かりやすいように別の色で書き込み、職員全員及び管理者で随時確認している。 | |
| 24 | (9-2) | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 日常会話から生活歴やこれまでの暮らし等について本人から直接お話をお聞きしたり、ご家族から情報を得るように努め、日々の生活の中で活かすようにしている。 | 入居時に家族から聞き取りをしているが、家族でも分からない事があるので、時間の経過の中で分かったことはその都度アセスメントシートに記入して把握に努めている。卓球が得意と分かった利用者とは卓球の時間を作ったり、本を読むのが好きなことが分かった利用者は図書館へお連れしたりと、日々の支援に活かしている。 | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 一人ひとりの生活のリズムや一日の過ごし方を理解し、行動や動作から現状の心身状態、有する力の把握に努めている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | ご家族の想いやご意見、ご要望をできるだけ聞き出して現状のケアに反映するように努めている。職員同士で情報交換をして情報共有した上で現状の介護計画を作成するように努めている。 | 利用者個々の担当職員と意見交換しながら計画作成担当者が介護計画を作成しており、計画の内容はミーティングの際に全職員に周知している。家族や本人にも計画内容について十分説明し意見を聞いている。モニタリングについても同様に、本人、家族、担当職員の意見を聞いて行われている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 個別のファイルに食事、排泄、日々の様子や状態変化等を記録している。職員は出勤時にその内容を確認し、申し送りで情報を共有している。その記録をもとに介護の実践や介護計画の見直しを実施している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | その時々々のニーズに対応するため、職員の勤務ローテーションを変更したりして、勤務体制を利用者サービスに合わせるよう柔軟な対応をしている。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域の直売所や喫茶店に出かけたり、図書館を利用している等の支援を行っている。運営推進会議では地域の方や地域包括支援センターの担当者等も参加しており、意見交換を通じて協力関係を築いている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | ご利用者やご家族の希望するかかりつけ医になっており、付添はご家族にも協力をお願いしている。職員が付き添った場合は、その受診内容やご様子をご家族にお伝えしている。 | 月に2回のかかりつけ医への受診と、協力病院への受診の付き添いは職員が行っており、医師へ本人の状態伝え、受診結果は家族にその都度伝えている。協力病院以外の眼科や歯科の受診付き添いは家族にお願いしている。急な熱発等はすぐにかかりつけ医に連絡を取り、素早く対応している。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | ご利用者の心身状態変化の把握に日々努めている。毎月2回の定期診察の他、体調の変化があった場合は協力病院に連絡して、助言、指示を仰ぎ、受診等を行っている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 職員が入院先医療機関へお見舞いに伺い、励ますようにしている。また、お見舞い時や様々な機会を利用して、医療機関やご家族と入院の様子や回復状況等の情報交換を行うなど良好な関係作りに努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入所時にグループホームでの対応をご家族に十分説明し、重度化した場合のご希望やご意見をお聞きしている。変化があった場合はその都度連絡を行い、医師の意見を踏まえて、ご家族と相談をして今後のあり方を話し合っている。 | 看取り対応はしていないため、入居時に家族に重度化した場合の事業所の対応について十分口頭で説明し、意向を確認している。また、本人の状態変化があった際には、状態に応じてかかりつけ医とも意見交換し、事業所としての対応の方向性を示しながら、家族と相談して支援を行っている。 | |
| 34 | 12-2 | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 職員全員がご利用者の身体状態を十分には把握して、日頃から適切な行動ができるよう、定期的に緊急訓練や蘇生術等の勉強会を行っている。 | 年に2回、併設の特別養護老人ホーム、デイサービスと合同で心肺蘇生法や吸引機の使用方法、酸素吸入器の扱い方などについて研修を行っている。AEDについては業者に来てもらい、専門家から直接使用方法を指導してもらっている。事業所独自でも管理者の指導のもと、随時訓練を行っている。 | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 職員、ご利用者とも、年2回の施設防災訓練に参加して、避難経路の確認等を行っている。施設が地域の緊急避難場所となっており、運営推進会議等で地域住民代表者との関係を深め、相互協力を得やすい状況作りに努めている。 | 併設施設とともに年に2回、防災訓練を行っており、夜間想定で1回、総合防災訓練として1回実施している。また、地区の自主防災組織の一員として施設全体で組織図の中に組み込まれており、災害時には地域の高齢者や重病者の受け入れ場所となっている。地域の消防団とも顔の見える関係で、災害時には連携し助け合う体制が築かれている。災害に備えて施設全体の4箇所に水や食料を分散して備蓄している。 | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 一人ひとりにあった言葉かけを行い、その人らしい生活ができるよう努めている。また、ご利用者の生活歴や性格等を把握して、職員同士が情報共有した上で、個人の誇りやプライバシーを損ねない対応に努めている。 | 利用者一人ひとりの性格を把握した上で、その人に合った言葉かけや対応を行っており、職員間で同じ対応が出来るよう情報交換している。トイレの誘いは他者に聞こえないように小さな声で耳元で話したり、排泄に失敗したときはさりげなくシャワーに誘導するなど、プライバシーを損ねないように配慮している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | ご利用者の状態等に合わせ、本人が答えやすいような声掛けを工夫している。聞こえにくい方にはさりげなく耳元で声掛けをするなどスキンシップを図るなどして、自己決定がしやすい状況になるよう支援している。 | | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 個人のペースを大切にして、日々の様子や状態に合わせて、お話を伺いながら、ご希望に沿った一日の生活が送れるよう努めている。地域への買い物、図書館の利用など個別のご希望に沿った柔軟な対応に努めている。 | | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 収集した情報をもとに、それぞれの生活習慣に合わせた身だしなみ、おしゃれ、お化粧品を楽しめるよう努めている。近隣の美容室でヘアのおしゃれができ、自分らしさを表現できるように外出支援も行っている。 | | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | ご利用者とともに、調理、下ごしらえ、味付け、味見、盛り付けや食事後の片付けを行っている。楽しくおいしい食事ができるように希望献立を随時行い、季節の野菜、くだものなどの食材で、ご希望に応じた献立を作り、食事が楽しくなる工夫を行っている。 | 直売所で購入した旬の食材や地元の方から頂いたものなどを柔軟に取り入れて献立を立てている。利用者とともに調理から後片づけまで行っているが、利用者それぞれに役割があり、それらを尊重した上で食事を楽しめるよう支援している。食事はゆったりとしたペースで、全員が食べ終わるまで待ってから片づけを行うなど、それぞれのペースを大切にして食事を楽しんでもらっている。 | | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 一人ひとりの状態を把握したうえで、その方にあった食事量や形態の工夫している。水分量が確保できるよう摂取の把握に努め、おやつの際は好きな飲み物を飲んで頂くなどの支援を行っている。 | | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | ご利用者の情報を把握したうえで、毎食後、各々の口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアの支援に努めている。また、洗浄剤等を利用した口腔ケアで清潔を保ち、誤嚥性肺炎の予防にも努めている。 | | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 一人ひとりの排泄パターンを理解し、自尊心を損ねないような声掛けの工夫などで、自立にむけた支援を行っている。また、パット使用者に対しては皮膚トラブル防止を考え、本人に合った用品を常に検討している。 | 利用者一人ひとりの排泄パターンを職員全員が把握し、利用者のしぐさや態度などから判断して誘導したり声かけを行っている。その成果もあって、日中はほとんどの方が布のパンツで過ごしている。尿取りパット類の使用に際しては、本人の思いを中心に体型や尿量に合わせてその方に合ったものを選択している。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 個々の排泄状態を把握、管理して、随時、腸の動きをよくするリハビリ体操を行ったり、散歩を行っている。食事内容や水分摂取量などの工夫により出来るだけ下剤に頼らないように努めている。万が一の使用時では使用量、頻度に注意している。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | ご利用者の入浴したい日や時間帯に合わせて入浴をして頂いている。ご利用者には安心感を持って頂くため、職員と一緒に浴室に入るなど、個々の状態に合わせるよう工夫をしている。 | 基本的には週3～4回、午後から夕方を中心に入浴を行っているが、利用者の希望をその都度確認して入浴してもらっている。季節に応じてゆず湯や菖蒲湯などの変わり湯を行い、入浴を楽しめるように工夫している。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | なるべく日中の活動を促すように心掛け、生活のリズムを整えるように努めている。一人ひとりの体調や表情を観察し、希望等を考慮してゆっくりと休息を取りながら一日を過ごせるよう支援している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | ご利用者の薬の処方箋は職員が内容を把握して、内容を理解するように努めている。服薬時は本人に手渡し、きちんと服用出来ているかの確認を行い、その後の状態を観察している。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 現在の状態を考慮して、ご利用者の経験を發揮して頂けるよう、可能な仕事を選び、お願いするようにしている。その際、感謝の気持ちをお伝えするように心掛けている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 近隣の喫茶店に定期的に出かけて行くなど、外出する楽しみを作るように努めている。季節に応じた四季の変化が感じられるようにドライブ外出を行っている。また、ご家族に思い出の場所などへの外出を促している。 | 月に1回は必ず外出しており、近隣の喫茶店には毎月必ず訪れる常連客となっている。季節に応じて桜や菖蒲の見物や、足湯などに出かけたり、日常的にも散歩に出かけて施設の周りの自然を楽しんでいる。近場にはスーパーなどが無いため、定期的に市街地への買い物に外出している。 | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | ご家族より必要最低限のお金を預かり、事業所で管理している。外出時や喫茶店の代金は自分で支払って頂くよう、手渡しする等の工夫を行っている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 家族に電話をしやすい雰囲気作りや状況設定を行うように努めている。電話の設置場所は落ち着いて電話ができ、他の利用者に会話内容が聞こえないような工夫をしている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | リビング、食堂、廊下などはさりげなく季節の飾り付けを行い、季節を感じて頂けるような工夫を行っている。カーテンなどで採光の調整を行い、室温をこまめに確認して、皆様が心地よいリビングと感じるような配慮を行っている。 | 玄関周りから居室周辺、共用空間まで、季節を感じられるように春は桜を飾ったり、利用者の活動の様子を利用者の目線に配慮して掲示するなど、清潔感にあふれ、統一感のある空間作りがなされている。採光や換気にも配慮が行き届いており、自然豊かな外回りの環境ともマッチして、利用者が落ち着いて過ごせる環境となっている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 食堂とリビングは一体的なつくりで、全てが視界に入り易く、ソファやダイニングテーブル、椅子などの配置に配慮するなど、落ち着いてくつろげるスペースづくりに心掛けている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|-------------------|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過ご せるような工夫をしている | 使い慣れた馴染みの物を居室において頂き、 本人の意向を確認しながら、その人がその人 らしく、くつろげる、居心地の良い居室づくりに 取り組んでいる | 利用者の希望に応じて使い慣れたものな どを持ち込んでもらっている。配偶者の位 牌や仏壇、人形や思い出の品々を持ち込 んで、利用者それぞれが自分らしい空間 づくりをしている。 | | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わ かること」を活かして、安全かつできるだけ 自立した生活が送れるように工夫している | ご利用者の状態等変化により、新たな混乱等 が生じた場合は、その都度、不安や混乱材料 を取り除き、自立した安全な生活が送れるよ うな環境になるよう配慮して、自立支援につなげ るように努めている。 | | | |

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当する項目に○印 |
|----|--|---|----|---|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | |